

# おけのこ

白杵石仏公園の蓮の花(白杵市)

## 猛烈な感染拡大を見せた 変異株による第四波

県内での変異株による感染確認は三月二十一日でした。四月下旬から急速に感染が拡大し、五月十二日から飲食店等への時短営業の要請がなされました。本県での第四波のピーク

約六十三億円の補正予算を加えると、本年度の予算総額は七千二百四十億円を超えることとなりました。

今議会では、新型コロナウイルス対策関連として、ワクチン接種や生活困窮者に対する支援策のほか、大分空港へのアクセス時短を図るホーパークラフト調達等に係る補正予算が審議されました。

六月十五日に開会した二〇二一年第二回定例会は、六月三十日に上程議案に対する採決が行われ、十六日間にわたる全会議日程を終えました。

## 2021年 第2回定例会

### 新型コロナの早期収束に向け 急がれるワクチン接種



は五月十四日の百二名となり、病床使用率の高さから一旦延長された時短要請は六月十三日に終了となりました。

## 「コロナ禍」収束の力ぎを 握るワクチン接種

県内でのワクチン接種体制は、個別接種を中心に集団接種で補完する方法で進められています。(接種機関数は六百を超え、人口あたりの数としては全国トップクラス) 高齢者への接種は七月末までの完了を目標に進められ、次に六十歳から六十四歳の方及び基礎疾患のある方、さらに小中学校の教職員や保育士等に加え、受験や就職を控えた高校三年生等への早期接種につなげるものとされています。なお、ワクチン接種はあくまでも本人の意思によるものであり、不接種者に対する不当な扱いや差別等はあつてはなりません。

定例会前の5月31日に、急きょ臨時会が招集されました。臨時会及び今回の第2回定例会で審議、可決・承認された補正予算と事業概要は次のとおりです。

### 臨時会 補正予算(第1号)

#### ①観光誘客緊急対策事業

「新しいおおいの旅割」の応募枠を拡大するとともに、旅行期間中に使えるクーポン券を発行する。  
・旅行代金の助成: 5千円/人・泊まで  
・クーポン券: 2千円/人・泊まで  
【3,500,000千円】

### 臨時会 補正予算(第2・3号)

#### ①営業時間短縮要請協力金給付事業

感染症拡大防止のため、時短営業に応じた飲食店等に対し協力金を給付する。  
・給付額: 2.5~7.5千円/日  
【5,500,000千円】

### 臨時会 補正予算(第4号) \*事業抜粋

#### ①ワクチン接種体制緊急強化事業

医療従事者の確保のほか、個別接種会場の休日開設や集団接種会場の追加等に取り組む。  
【232,000千円】



#### ②中小企業・小規模事業者事業継続支援金給付事業

外出自粛や時短営業等の影響を受け、売上が大きく減少している事業者に対し支援金を給付する。  
・法人30万円、個人事業者15万円まで  
【2,195,344千円】

#### ③「安心はおいしいプラス」認証制度推進事業

飲食店における感染拡大を防止するため、第三者認証制度を創設するとともに、設備導入に要する経費に助成(30万円まで)する。  
【1,284,779千円】

### 定例会 補正予算(第5号) \*事業抜粋

#### ①生活福祉資金貸付事業

感染症の影響により減収となった世帯の生計等の維持を図るため、緊急小口資金等の特例貸付を実施する。県社協へ原資を補助する。  
【1,000,000千円】

#### ②生活困窮者自立支援事業

感染症の影響により減収となった世帯の生計等の維持を図るため、支援金を支給する。(期間: 3か月)。  
・対象者: 特例貸付(①)の借入額が限度額に達した世帯  
・支給額: 単身6万円、2世帯8万円、3人以上世帯10万円(月額)【40,000千円】\*4町村分

### 定例会 補正予算(第6号)

#### ①大分空港海上アクセス整備事業

空港へのアクセス時間を短縮し、観光やビジネス等における利便性を高めるため、ホーパークラフトの調達や発着地の整備に着手する。

- ・船舶(ホーバー)購入: 3隻
- ・土地取得(大分港西大分地区)【1,830,729千円】
- \*債務負担行為: 3,157,327千円



#### ②情報セキュリティ対策高度化事業

自治体情報セキュリティクラウドシステムの運用が今年度末で終了するため、次期セキュリティクラウドシステムを構築するとともに、データ移行等を行う。  
【62,150千円】

### 定例会 補正予算(第7号)

#### ①ワクチン接種体制緊急強化事業(追加)

ワクチン接種の11月末完了に向け、県営接種会場の設置や職域接種等の接種体制をさらに強化する。  
【2,560,000千円】

## 新型コロナウイルス感染症対策 特別委員会を設置

今定例会で新型コロナウイルス感染症対策に関する特別委員会の設置が諮られ、全会一致で承認されました。(私も委員として指名されています) 特別委員会では、「感染症に対応する体制」、「社会経済の再活性化」、「新しい生活様式への対応」等について調査、審議いたします。

- 六月に招集された第二回定例会にて、私は次の六つのテーマに関する一般質問を行いました。(質問と答弁内容は概要)
- 一. 九州ブランドのPR拠点づくり
  - 二. 電気自動車(EV) ①EVシフトに伴う影響等 ②EVの普及
  - 三. ツール・ド・九州2023
  - 四. デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進
  - 五. 避難所運営 ①避難者の良好な生活環境の確保 ②災害時における重度障がい児者へのケア体制
  - 六. 教育分野でのデジタル技術の活用 ①GIGAスクール ②デジタル文化資源

## 2021年第2回 定例会 一般質問・答弁

詳細はHPから 大分県議会 検索



東京・有楽町にある大分県のフラッグショップ「坐来大分」

(木田) 現在、コロナ禍にあつて会食や観光が制限されていますが、「アフターコロナ」を見据え、首都圏でのPR戦略を考へるべきと考えます。「九州観光戦略」の分析では、本県も含め、九州各県の観光客は近県、関西方面からの来訪が多く、インバウンドに訪れてもアジア方面からの来訪に偏っている現状です。「第二期九州観光戦略 第三次アクションプラン」では、「世界中の観光客から選ばれる『KYUSHU』の確立」が基本方針の第一に挙げられており、今後は各県ごともさることながら、九州としてのブランドイメージの定着と認知度の向上が重要だと考えます。そこで、九州各県が共同で九州ブランドをPRする、シンボリックな拠点施設を首都圏に設置してはどうかと思いますが、知事の考えをお聞かせください。(答弁) 県では、坐来大分による「食の情報」をコンセプトにした大分の魅力発信等に取り組んできた。今後もターゲットとなる方が九州・大分を知り、行きたいと思つてもらえるよう、最適な施策を実施していく。九州各県と連携しながら九州や大分をPRし、ブランド力を一層高めていく。\*木田の考えは、関西以北の地域や海外に向けては、「九州」または「KYUSHU ISLAND」でPRする活動を進め、認知度を上げるべきと提案しました。(裏面に続く)

九州ブランドのPR拠点づくり

「電動自動車シフトに伴う影響等」

（木田）温室効果ガスについて、政府は昨年十月二〇五〇年までに排出を削減し、二〇三五年までに新車販売を電動車のみとする方針が示されました。

世界的なEV化の潮流の中で国際競争力を維持するためには、EVシフトに対応すべきなのか、または水素エンジンなど別の道があるのか、大きな転換点にあると感じます。

本県には県北を中心に、車体や部品メーカーなど自動車関連産業が集積しています。自動車産業は裾野の広い産業と言われますが、EV化の進展に伴い、設備投資や人材確保など本県の自動車関連産業に対し影響や課題はないのか、世界的なEV化への評価を踏まえ、知事に今後の見通しを伺います。

（答弁）県としては、企業を中心に、自らがその変化をどう捉えればいいのか、その変化の中からどう成長の機会を見つけていくか、そのための支援を講じていく。「次世代自動車セミナー」を開催し、電動化の自動車部品への影響等の知見を得る場として活用してもらっている。次に、新分野に挑戦意欲のある企業に対し、電動化等に係る部品製造装置等の開発費用を補助する制度を設けている。本県自動車関連産業



の更なる発展に向け、自動車メーカーや大手部品メーカーとの連携も深めながら、企業の事業展開意欲を後押しするよう、効果的な支援に取り組んでいく。

＊木田の考え↓電気自動車の普及には、充電設備の充実が必要で、併せて、集合住宅での充電設備の整備が課題になると提起しました。

「ツール・ド・九州2023」

（木田）本年一月に、本県にまた新たなプロスポーツチームが発足しました。本県出身で国際レースでの優勝経験を持つ黒枝兄弟を含む選手6人で構成する県内初のプロ自転車チーム「スパークルおおいたレーシングチーム」です。

サイクルツーリズムの機運も高まる中で、自転車ロードレースの国際大会である「ツール・ド・九州2023」が福岡、熊本、大分の3県において開催されること発表されました。これは「スパークルおおいた」の誕生とともに、「アフターコロナを見据えた、久しぶりの明るい話題となりました」。

大会の誘致は、地域への経済波及効果や、開催後のレガシー等、様々な狙いがあることと思いますが、具体的にどのような成果を期待しているのか伺います。

（答弁）ツール・ド・九州2023は、国際自転車競技連合（UCI）認定の国内外のトップ選手が参加する国際レースとして、2023年の第一回大会開催をめざしている。大分ステージでは、日田市中部から公道を通り、オートポリスを周回するロードレースを念頭に進めており、地域の人々が盛り上げ、元気になるイベントにしたいと考えている。地域活性化

化や宿泊等による経済効果に加え、サイクルスポーツ人口の底上げやスポーツツーリズムの推進なども期待される。「スパークルおおいた」には、本県のレースルート策定などについてアドバイスをいただいている。県自転車競技連盟などの関係機関とも連携し、大会開催に向けて、着実に取り組んでいきたい。

＊木田の考え↓「ツール・ド・九州」のコースは聖地となり、国内外のサイクリストが訪れると期待されます。今回は湾岸コース（別大道路）の設定を検討していたが、大きく提案しました。

紙面の都合で、質問・答弁のすべてを掲載できません。恐れ入りますが、その他の質問内容については、県議会ホームページ（左を参照）をご覧ください。



Oita Prefectural Assembly  
大分県議会 インターネット中継

県議会ホームページにて一般質問の中継録画を視聴できます

コロナ禍の関係で、団体での議会傍聴をご遠慮いただいております。県議会HPにて、一般質問の全録画をご視聴できますのでご案内します。  
（「<https://www.oita-pref.stream.jfit.co.jp/>」 → 「議員から選ぶ」 → 「木田昇」を選択）

最近の活動

4月

- ▷ 第15回県議会政策勉強会 駐日ロシア連邦特命全権大使「ミハイル・ユリエビッチ・ガルージン」氏による「ロシアの外交政策と日露関係」について学ぶ。
- ▷ 佐賀関地区自然保護活動 大分市近郊の「こうざき自然海浜公園海水浴場」の海岸清掃活動と準絶滅危惧種「ハマボウ」の増殖活動に参加。地域コミュニティの力で自然公園の整備を進める。
- ▷ 首藤コレクション顕彰大分県推進協議会
- ▷ 講演「食糧と食の安全はどうなるのか」：山田正彦氏
- ▷ 内外情勢調査会「ポストコロナへ 大分県の挑戦」：広瀬勝貞氏、大分政経懇話会「新型コロナにどう向き合うか」岩崎恵美子氏、第92回メーデー大分県中央大会



5月

- ▷ 県内所管事務調査（県立芸術短期大学） 今年4月に創立60周年を迎えた。約55億円、6カ年に及ぶキャンパス整備事業により、芸術デザイン棟をはじめ、音楽ホール等ほぼすべての施設がリニューアルされた。

- ▷ 県内所管事務調査（別府市：竹工芸訓練センター） 本県の代表的な伝統工芸「竹工芸品」の製作技術から販売までを担える人材育成を行う。訓練期間は2年で、入学金・授業料はともに無料。
- ▷ 自治労自治体議員連合全国学習会「地方自治の課題」：片山善博氏、内外情勢調査会「ピンチをチャンスに変える企業」：中村朱美氏、5月臨時県議会



6月

- ▷ 第2回定例県議会開会、コロナ対策特別委員会
- ▷ 県内所管事務調査（宇佐市：共栄九州（株）） 通常は廃棄処分される太陽光パネルの再資源化を行う九州では唯一の企業。太陽光パネルは、再生可能エネルギーの進展で、県内で約460万枚が設置されている。
- ▷ 県内所管事務調査（日田市：水辺の郷おおよま） 昨年の7月豪雨災害や長引くコロナ禍で苦境にたつ日田温泉協同組合の皆様と意見交換。「進撃の巨人 inHITA ミュージアム」では、作者「諫山創」氏のお父様（写真左）から説明をいただく。



防災メモ

今年も出水期に入りました。自治体や気象台からの防災・気象情報にはアンテナを高く注意を払ってください。

5月に「改正災害対策基本法」が施行され、災害時に市区町村が発令する「避難勧告」が「避難指示」へ一本化されました。

これまで、警戒レベル4では避難「勧告」と「指示」に分かれていましたが、住民の避難行動の判断に迷いを与える可能性があり、「避難指示」に統一するものです。

また、警戒レベル3の「避難準備・高齢者等避難開始」は「高齢者等避難」へ、警戒レベル5の「災害発生情報」は「緊急安全確保」へ改められました。

過去の災害では、「逃げ遅れ」が惨事を招いた事例が多く見られます。災害の恐れがあれば、テレビのほかにも「おおい防災アプリ」などのツールも活用して情報収集し、「早め」そして「明るいうち」に避難してください。

公式LINEはコチラ  
木田昇の議会・政務活動を随時更新中。

ご意見・ご要望なども、お気軽にご連絡ください！  
\*QRコードからお友達登録をよろしくお願いします。

県民クラブHPはコチラ  
<http://www.oct-net.ne.jp/kenmin-club/>

竹の子記

米映画には人類や地球の将来、未来を予測して製作されたものが多くあります。例えば、八〇年代に公開された「バック・トゥ・ザ・フューチャー」が描いた未来は今より少し前の二〇一五年の世の中、タイムマシンカーは実現していませんが、「キャッシュレス決済」や「空飛ぶ車」など、今ではほとんどの技術が実用化もしくは実用化段階に至っています。驚くのは、二〇一二年に公開された「コネティジョン（接触感染）」です。あらすじは、香港から帰国した人がウイルス性の感染症で咳や高熱で次々と倒れ死に至り、あつという間に世界中に感染が拡大します。逼迫する医療現場、都市ロックダウンや日用品の買い占め、ワクチンを求めて列を成すシーンなど、まさしく今の「コロナ禍」そのものが映し出されています。▼映画でなく現実のパンデミックに直面して一年半が過ぎます。この間、「アベノマスク」に始まり、「緊急事態」と「GoTo」との関係や五輪開催の判断基準など、積然としない事の何と多かつた事か。政府においては、科学的根拠に基づいて国民が納得できる説明を尽くさなければなりません。▼先程の映画では、ワクチンが国民に提供されて幕が閉じました。直面する現実の「コロナ」の一日も早い収束を願います。